

(様式)

第2回かわにし市民会議 議事メモ

班	2班 「子育て・教育の充実」
コーディネーター	石井 聡
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	教育推進部 岡本副部長、中西副部長、山戸副部長 健康増進部 金淵副部長
日時	2019年7月6日(土)13時00分から16時00分
場所	川西市役所 7階 大会議室
その他	参加者数 16名

趣旨・概要

テーマ共通の現状及び課題の共有
子育て支援策について
学校教育について
中学校給食について

総括

班のリーダー総括

子どもが減少しているため、その対応を考える必要がある。川西市で特徴のある教育を進めていくことも、その一つではないかと思う。里山やイチジクなどの名産品等を使って、かわにしらしさを発揮して、子育て世帯の転入につなげて、多くの方に住んでもらえるまちをめざしていくのが良いと考えている。

コーディネーター総括

発表者の内容のとおりであるが、追加するとすれば、第1回の市民会議の自己紹介で、川西市の中学校給食についての質問があった。今回、市から説明をいただいたが、2022年9月からの実施に向けて、着々と進んでいることが分かった。10年前から給食の話があったが、学校施設の耐震化やエアコンの整備といった命にかかわる事業を優先したため後になった。その点を、伝わるように説明できていれば市民の反応も違ったのではないかと感じる。

あと、いじめの問題について、小学校、中学校での市の対策や方針がどうなっているか分かれば、安心して進学させられるという意見があった。そういう点を踏まえると市からの情報発信は考えていく必要があると思う。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

協議の流れ

1. 第1回・市民会議の振り返り

コ) 子育てと教育の意見があり、特に中学校給食に対する話があった。

最初から市民の皆さんで議論するよりも、今の川西市の現状を共有してから話をしていた方が良くと思い、先に行政の担当部からご説明いただきたい。

子育て支援策をどのようにおこなっているか、他の自治体と比べてどの点が異なるか、同じなのか、遅れているのかなどを聞かせてもらおう。そして、学校教育がどのようになっているかも説明してもらおう。

2. 子育て支援策について(こども未来部 岡本副部長より説明)

市) 子ども・子育て施策は、「川西市子ども・子育て計画」を基に進めており、この計画は本年度が最終年度となる。現在、第2期の子ども・子育て計画を策定中。

現在は子ども・子育て計画に掲載している事業を中心に実施している。

- 基本目標「 親と子のいのちと健康を守る」 計 32 事業を実施
- 「 教育・保育・子育て支援サービスの充実」 計 91 事業を実施
- 「 子どもたちを家庭・地域で健やかに育む」 計 57 事業を実施
- 「 子どもの権利と安全を守る」 計 25 事業を実施

次に、市で具体的に実施している内容を「すくすくガイド&マップ」をもとに説明させてもらおう。この冊子は、妊娠、出産期や子育て中の方を中心にどのようなサービスがあるか分かりやすく伝えるために作成した。母子健康手帳の交付や健康診査の内容など、市民の方に直接関わる内容を地図も合わせてまとめたものとなっている。

他市との比較ですが、川西市として独自で行っているものとするれば、新婚世帯に対する家賃補助を行っている。子どもの医療費、猪名川町は中学3年生まで無料。川西市は助成にとどまっている。

川西市独自でおこなっている分というのは少ない状況。

川西市の特徴でいえば、キセラ川西プラザにオープンした「こども・若者ステーション。」妊娠・出産・子育てから若者まで一貫して支援をおこなう施設。高校を卒業されて39歳の若者までを対象に例えばひきこもり、ニートの相談も受け付けている。ステーションには保健師、保育士、臨床心理士などの専門職が勤務しており、子育てに不安、相談したい、社会的自立に向けてサポートして欲しいなどに対して、切れ目のない支援をおこなっている。

参) すくすくガイドマップはどのように配布し、周知しようとされているのか。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

- 市) 保健センターに検診に来られる方や赤ちゃんが生まれた方に配布している。公共施設で親子が来るような施設には置くようにしている。
- コ) ガイドマップは0円で作成しているんですね。
- 市) 民間の事業者に広告料をもとに作成していただいております、市からは情報を提供するだけで公費はかけずに作成している。
- 参) この冊子に公園の情報を入れたり、マチカゴ(子育て情報アプリ)と関連させたりしているのか。
- 市) マチカゴは子どもの年齢や人数を登録すれば、その年齢の予防接種の情報や子育てイベントなどが配信されるアプリ。
マチカゴ(子育て情報アプリ)との関連付けは、今後に検討したい。
- 参) こどもの件について周りに相談しにくい。行政の支援が対象にならなくても、やはり子育ては大変で、夜中も寝不足になって大変な保護者は多い。新生児の母親同士が集まれる場があって、食事もできて、悩みなどの共有ができると助かる。
- 市) お父さん、お母さんを支援することは本当に大事で、川西市でも地域子育て支援拠点としてプレールームを開設している。
そこには保育士を配置して、保護者同士の交流も進めている。
産後ケア事業は「こども・若者ステーション」で事業展開を検討している。

3. 学校教育について(教育推進部 山戸副部長より説明)

- 市) 公立小中学校教育の特色について、教育委員会は、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校を所管している。近隣市町で保育所を所管しているのは、昨年度までは川西市だけ。本年度からは伊丹市も所管している。
保育所を教育委員会が所管する意味は、教育期間15年間(中3、小6、就学前6)を教育委員会が継続的に学びを見ていくことができる、傾向を見ていくことができる「強み」があると考えている。

<「川西の教育」の説明>

「校園所長会議、校長会議、園所長会議、教頭会議の開催によるマネジメント能力の向上」所属長が集まり会議を開催し、課題等の共有を中学校区単位で行っている。研修も中学校単位でおこない、授業研究も一緒におこなったり、目指す人間像の共有を行い、課題や方向性を明確にし、接続を円滑にするなどにつなげている。

就学前の子どもが小学校に行き、交流したり、給食の体験をしている。小学生が中学校に行って、中学校の先生が授業をしたり、生徒会から話をしてもらって中学生生活を分かってもらったりしている。

- 参): 市民参加者、コ): コーディネーター、ナ): ナビゲーター、市): 説明担当者

(様式)

「生きる力を育む体験活動の推進」

人と自然のつながりから学ぶ里山体験学習の充実とあるように、兵庫県が体験活動を重視しており、小学校3年生で環境体験学習、小学校5年生では自然学校、中学校2年生ではトライアルウィークをおこなっている。川西市では小学校3年生と5年生の間に日本一の里山を活用した「里山体験活動」も取り入れている。

体験学習には、地域の方の協力や支援をいただいております、地域に根差した教育活動の一環として、地域の活性化にも繋がればとの思いもある。

< 「全国学力・学習状況調査結果報告」の説明 >

学力・学習状況調査で測定できるのは、学力の特定の一部を確認しているものであり、学校教育の一側面であり、学力のすべてを調査しているものではないと認識している。

全国平均等と比較して一喜一憂することを目的としているのではなく、教科における各領域での習熟度状況を把握して、以降の学習活動に生かすことを目的としている。成果や課題を教育施策の方向性として考えている。

学力だけでなく、状況調査、生活面での調査、学習意欲での調査などいろんな調査を分析している。学力がすべてではないとご理解いただきたい。

体験学習

参) 学校と市教育委員会の関係について、学校からのフィードバック、実施した事項の結果のチェックはどうしているのか。

例えば、学校でそれぞれ行事を実施していると思うが、正しく実施されたか、成果があがったのかをチェックしているか。

市) 例えば、里山体験学習で言えば、内容をまとめるようにしている。教育委員会側から意図を伝え、その内容に基づいて学校側が計画を策定し、そして実施することにしている。その結果をまとめるとともに、子どもたちの意識もアンケートで把握するようにしている。成果、課題はまとめている。

一方、各事業において、学校側への押し付けだけでなく、フィードバックもしてもらい、教育委員会でも検証を実施している。

参) 学校からのヒアリングのみなのか。参加した子供の親からの聞き取りは。

市) 事業によって異なるが、教員と子どもたちから聞き取りは実施している。保護者については、どこまで聞いているか把握できていない。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

- コ) 1. 2年前に自然体験学習に力を入れている大津市でも同じ議論があった。全ての中学校(2年生対象)に、2泊3日でのキャンプで、教育委員会と学校側で地域の特性(都心や山間部)もあり、キャンプを実施する必要について、教育委員会は進めたい、子どもは喜んでいる、ただ、保護者は学校毎で特色を出すという意味を含めてなくても良いのではないかという議論があった。

いじめ

- 参) 市として、いじめに対する対策を取り組まれていると思うが、報告書であるとか、得られた情報について、ホームページなどに公開しているか。
- 市) ホームページ等では公開はしていない。ただ、いじめ防止のため基本方針を毎年策定しており、基本方針は学校ホームページに掲載している。また、いじめだけでなく問題行動等については、毎月、学校から教育委員会に報告している。いじめがあった場合、認知後すぐに教育委員会に連絡してもらい、指導・助言をしながら、学校と情報共有、連携をとって対応している。
- 参) どの学校で、どのようなことがあって、どのような対応をされたか分ければ、安心して進学させられるかなと思っている。
- 市) 公表していない理由としては、学校や保護者など特定につながる恐れがあるためである。ただ、学校、教諭等と再発防止にむけた対策は実施している。
- 参) どこまでがいじめで、どこまでが教育かと思う。
介護保険では事故報告書がある。どういった相談があって、どう改善したか、を公にしている。あくまで事例の紹介くらいはあってもいいのではないかと。川西市では、このようなことがあった、それをどのように改善したかをオープンにしているということ伝えれば、学校だけでは対応が難しいところも、親や地域が協力してくれる、お兄ちゃん、お姉ちゃん、弟、妹の教育にもつながる、もっと改善につながるのではないかとと思う。
- 市) 具体的な事例をあげたり、オープンにしている訳ではないが、「どうとく」の授業や学校生活の中で、改善した内容を踏まえて、こどもたちの教育につながるような取り組みは実施している。

学習・学力

- 参) 学力も重要な課題と思っている。成績だけがすべてではないと思うが、学力向上は大切なので、その取り組みを教えてほしい。
- 市) 教員が授業改善を考えることが大切であり、指導力アップに向けた研修を数多く実施している。また、学力向上は教員や教育委員会だけでは難しいところがあるので、家庭の協力、地域の協力もお願いしたいと考えている。
- 参) 小、中、高校と市内の公立で育った。川西ならではのこととか、何が良かったかなと考えていた。小学校の給食はおいしかった。毎日、献立を楽しみにして

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

いた。中学校からお弁当になった。今、思えば小学校の給食が中学校にあったら良いと思う。ただ、他でセンター方式の給食が嫌だったと聞いた。給食でたまにイチジクが出た。その時に、川西にはイチジクがあると知った。それぐらいが川西のイメージ。

自然学習で海に行ったが、他県であったし、自然に触れたが川西だからということもないと思う。中学校でもトライアルウィークに参加したが、正直、それ以降、川西だからということは意識したことがなかった。どちらかという、田舎で何も無いイメージ。

育ってきた当時と今とで川西らしさが加わったということがあれば、教えていただきたい。

他市では、そのような点をうまく打ち出しているように見える。

参) 学力だけで判断できないことは理解できるが、どういったところで川西らしさを出していこうと考えているのか。

市) 里山体験学習は平成21年度から全小学校で事業としてすすめている。里山をPRし始めたのは、ここ最近の話であるため、このような点を継続して続けて、今の児童、生徒たちにはかわいらしさを学んでほしいと考えている。

今年度からは、外国人の指導助手(ALT)を増員している。小学3年生から6年生まで学年に応じて配置しているが、外国語活動の全授業において地域の人材やALTを配置しているのは本市だけになっている。

コ) 川西ならではの、川西らしさなど他との違いについては、市民の皆さんとともに考えていくのもこの会議の趣旨。今のご意見は重要な視点ですので、このあとずっと考えていければよいと思う。

参) 孫が千葉にいるが、中学2年生で不登校になりかけている。

資料には「健やかに育ち」と書いているが、私は自信がない。「たくましく」と言われてもなというところがある。何をしても自信のない子がいる。そういう子どもは何かしてほしいというわけではない。

こうなれ、こうなれと騒がれることが困る子もいる。息苦しく思う子もいる。どうしたらいいのか。

市) 学校にはスクールカウンセラーや支援施設の相談窓口、適応教室を用意している。そういう施設を活用してもらうことも良いのかなと思う。教育委員会としても掲げている目標をすべての子どもに求めるということではないと考えている。一人ひとり異なるため、ご家庭でも相談されていると思うが、足りなければ是非、学校の方にも相談してください。

コ) 昔に比べて、学校に来ないとダメとか教室で授業受けるとかではない。各個人に合わせた配慮をしている。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

- コ) 児童・生徒が少なくなっているなかで、同じ学校教育であれば、引き続き減少していくことになる。
今の時点で、転入、転出の状況はどうでしょうか。地区別でもあれば。
- 市) 0 から 9 歳、30 歳代の転入は多い。逆に 20 歳代の転出が多い。
想定ではあるが、結婚して当初は他の自治体で。子どもが生まれてから川西市に転入する傾向にあると考えている。一戸建ての購入を見据えてだと思ふ。
地域では、中央部及び南部は増加又は平行傾向。ニュータウンは減っている。
- 参) 子育て世帯の流入には、高学力の魅力もあるのではないかな。
子育てといえば、保育、幼稚園という印象が強い。中学・高校への学力での支援も重要と思うが、その点が不足しているのではないかな。
- 市) 高校は県の管轄となるので、本市だけでできることはない。中学校・高校の教員の事業研究をするなど連携している。
中学校の教育については、学習指導要領に沿って指導している。各学校でどういった授業展開していくのか研究しており、学力向上に向けて各学校でも工夫はしている。
- 参) ある中学校では、進学に対する支援の積極性を感じられない。それが中学校のスタンスかなと感じるときがある。学力の高い高校への進学を考えるのであれば、私立に行ってくれという印象を受ける。中学校の教育、学力の方を向いていない印象をもっている。教育委員会としてどう感じているかな。
- 市) 進路指導も大事なことであると考えている。ただし、高校がゴールとは考えていない。こういう高校がいいよではなく、自分の将来の目標を考えた上で、今、何をしないといけないのかという点から進路の指導をしている。
その目標に向けて学習が必要であれば、そのように指導し、進路計画を立てて進めているが、そのような印象を持たれているということは学校の方には伝えていきたい。
- 参) 進路・行き先が見えにくいので、そこを強化することが川西市の特徴につながるのではないかなと思ひ話をしました。特徴のある進学校が周りの市町にはあるので。
- コ) 全てを川西市で完結することは難しいと思うが、その中で川西市がどのような点に力を入れていくのかという視点は良い指摘だったと思う。
- 参) 外国語指導助手についての延長の話。
行かせたい高校のために引っ越した事例がある。
この指導助手を、ただ配置しただけではなくて、このように配置して、このような取組みをしているというのを川西市の特徴にすることが大切だと思ふ。
ユニークなものとして、メディア(ニュースなど)に取り上げられることでホームページなど調べるきっかけにもなる。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

内容をおもしろいものにするとともに、その川西らしさが子どもの時、そして大人になった時にも覚えていれば、良いのではないか。特化することも重要。川西市におさまらない情報発信も必要だと思う。

4 . 中学校給食について (教育推進部 中西副部長より説明)

市) 川西市の中学校給食は、令和4年(2022年)2学期からのスタートで準備している。給食センターから各学校に配送する方式で進めている。

< 「中学校給食に係る近隣市町の現状」の説明 >

< 「中学校給食のこれまでの検討状況」の説明 >

< 「中学校給食センター整備事業」の説明 >

コ) 確認です。小学校と同じ自校方式だと全校一斉不可、コスト大のためセンター方式で検討した。場所の選定では、最初の検討場所は3階建てで80億だったため、今の検討場所であれば65億円。だから、この場所で決定して2022年9月、今の小学校4年生が中学校になる時をめざして、現在動き出しているということですね。

参) 幼稚園の友達と話した時に、川西市に給食がないと。それが理由で川西から違うところに引っ越した人がいた。ただ、子どもがあまり減っていないことを考えると中学校の給食があるか、ないかで、人数は変わらないのではないかと。

コ) 給食があるか無いかで、市外に出るのかは地域によって違うのではないかと。逗子市は、賃貸住宅が少なく持ち家率が高いため、30代の保護者が0~5歳(小学校の入学前)の子どもとともに転入してくる世帯が多い。小学校で転校させたくないため、その時期を選択されることが多い。

川西市のように、一旦、賃貸で住んで、中学校に給食がないから違うところに転出しようというのは少ない状況。

市) 中学校給食が無いがために、お弁当は負担であることから、引っ越すとお電話を頂いたこともある。子育て施策・サービスの比較で、どこの市に住むか決めるところもあると感じる。

コ) 不動産サイトなどで、子育て施策・サービスが一目で出るホームページがあり、その内容を見て、住む街を選ぶ人もいると思うし、そうでない人もいると思う。ただ、役所としては、そのような点は気にしていると思う。

参) 中学校給食については、課題だと認識しながらも長期間検討が続き、放置された印象がある。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

- コ) 先ほどの説明で、空調設備の導入を優先してきたとのことであるが、一方でアンケートには空調がないとあった。どちらでしょうか。
- 市) 中学校給食については、H18年から議論しており10年以上経過している。
学校施設の耐震対策をH19~29年度まで実施した。
東日本大震災で被害が多かった体育館の天井落下についても対策を行った。
空調設備については、H29年度に全ての学校・幼稚園での整備が終わった。
そういう経過や中学校給食に向けた動きが分からないということから、H30年度にホームページ上に進捗状況を載せた。
- コ) 各工事に要した費用の金額等はわかるか。
- 市) 建物の耐震化(天井落下防止対策は除く)で約110億、空調設備で約30億かかった。
- コ) 中学校給食も、耐震化等も同時に進めるのは困難だから、耐震化を優先したため、給食が後回しになったということがわかった。

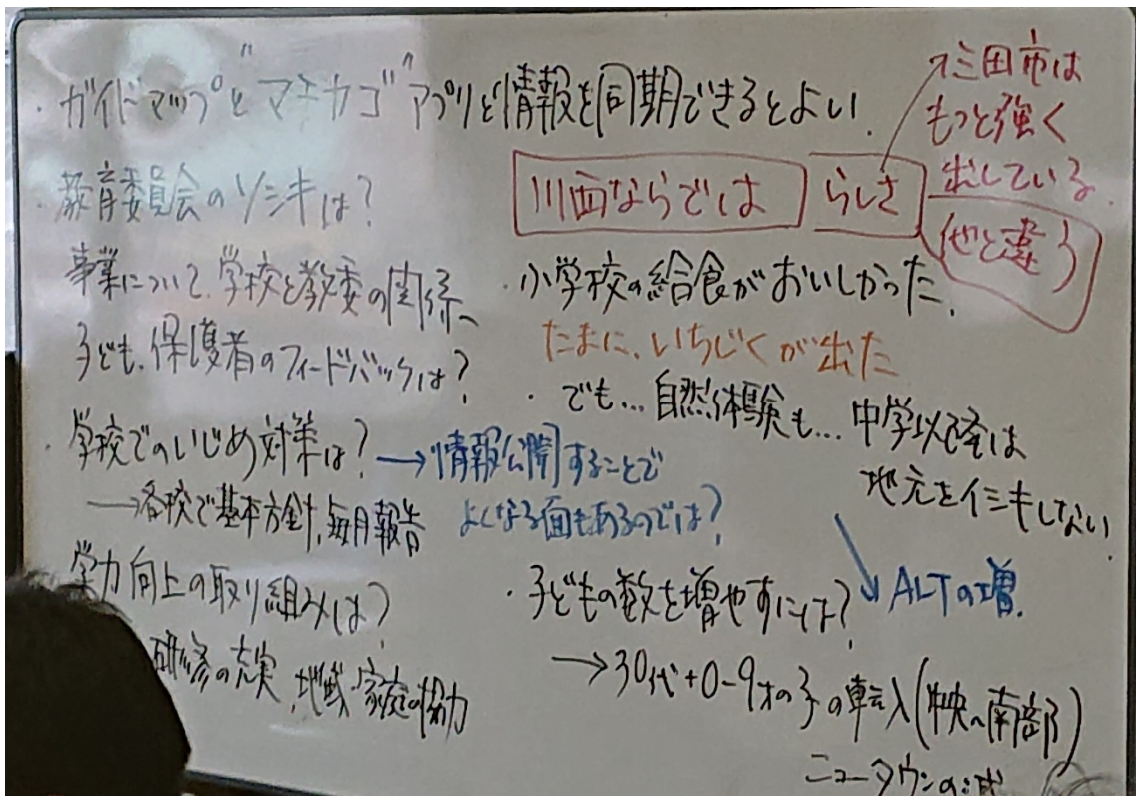
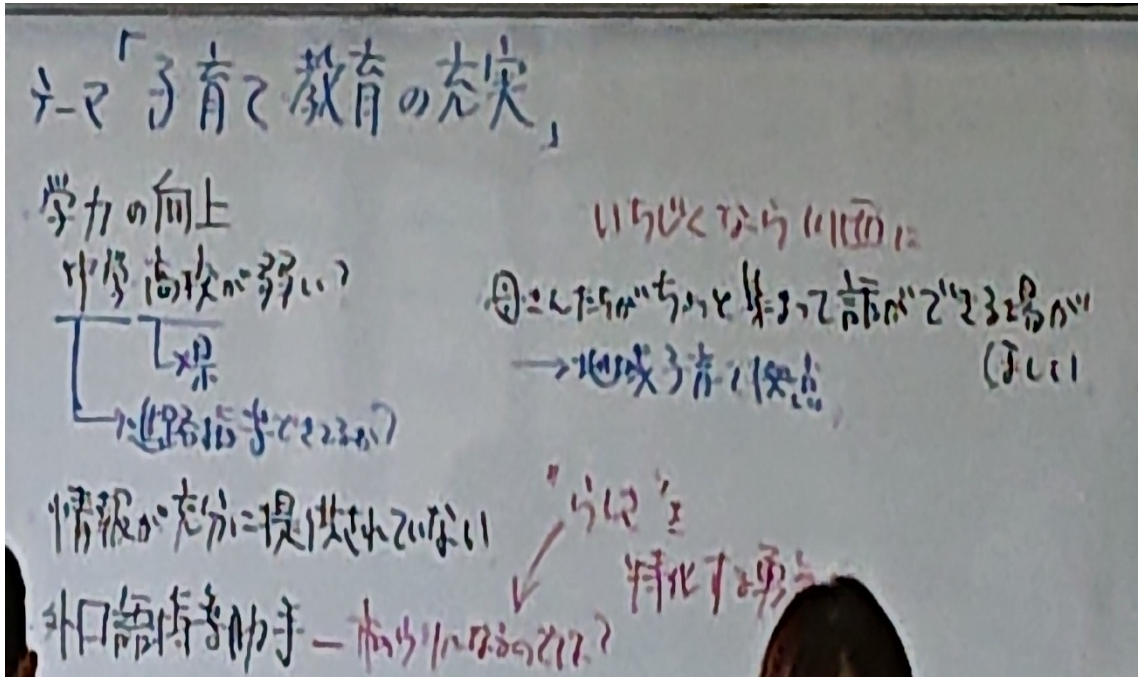
5. その他

- 参) 最初の説明では、子どもは減っていると聞いていたが、この資料では減っていないように思う。
- 市) 小学校、中学校ともに一旦増える時期はあったが、これは川西市だけの傾向ではなく、全国的な人口構成の影響がある。特に、川西市で何か施策を進めたからではない。
- 参) 学校教育や進路など、情報公開が不足しているのではないかと。
市民会議で知ったことが多い。給食を含めて、このような理由で、こうなったという情報発信が大事だと思う。聞かないと分からない、調べないと分からないではいけない。良いアイデアがないものか。
- コ) 先ほどのいじめの問題も同様。ただ「安心してください」ではなく、その根拠、理由をもっと市民に行き届くようにすれば良いかもしれない。
改善提案シートにつながる、参考になる良い意見だと思います。
- 参) 特色ある、未来のある大学誘致は考えられないか。市内に高校が3校ある。
土地もあるし、交通の便も良いと思う。何か考えてほしい。
人口が増えて、税収が増えるのではないかと。
- コ) 18歳の人口はどんどん減っていく。
新しい大学というのは難しい部分はある。以前、大学をたくさん誘致した自治体があったが、大学が撤退したり、その対応に何十億も使って市の財政に大きな影響を及ぼしている自治体はある。土地があるとかだけで、誘致するのは相当難しい。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

ホワイトボードの写真



参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者